

3つの英語ルール

無駄、徒労の一切を防ぐために。

3つの英語の世界をして、効率的に英語学習する。

こんにちは、ベルです。

僕は英語を 2000 人以上に教えているけれども、

無駄なことをやっている人を数えきれないほど見てきた。

そして僕自身も、無駄な勉強をすることが多かった。

その反省と、これから徒労の一切を防ぐために

「英語の世界観」

について詳しく語りたい。

まず、

英語には 3 つの世界がある。

「もの」「こと」「色彩」

の 3 つだ。

この 3 つはルールと言ってもいい。

原理原則なのだ。

いまは意味が分からなくても

詳しく語るから安心してほしい。

大事なこととして、

英語には、うえの 3 つの世界観のうちどの世界にいるのか？

という客観的な視点が必要になってくる。

今回のレポートは、自分の立ち位置を確認して、
どんな勉強をすべきかを明確にするために使ってほしい。

つまり一番効率的に勉強するために
すべきことを把握するために活用してもらいたい。

なんとなく英語に触れるのと、
これから紹介する3つの世界観を意識して勉強するのかでは、
効率がだいぶ変わってくる。

ぜひ最後まで知ってほしい。
必要に応じて保存してもらっても大丈夫だ。

なお、この 3 つのルール、世界観は英語だけに限った話でない。

日常的にも活用することができるため、
人生を豊かにすることもできるのだ。

言葉とは毎日使うものであり、
コミュニケーションはこれからも必ずしていかなければいけない。

つまり言葉を極めることは、人生を極めることである。

では、前置きが長くなったが、
(日本語にも当てはまる)
英語の 3 つの世界を紹介していく。

◆◆◆「もの」の世界◆◆

まず「もの」の世界。

ものの世界とは、

単語の意味がわかる、「単語だけの世界」のことだ。

イメージ的には幼稚園児。

パパ。ママ。という単語は分かるけど、

意味ある文章にはまだほど遠いという世界のこと。

だから名詞が中心となっている。

頭の中で、物体のイメージが可能な状態だ。

(ちなみにイメージできなければ、
その世界は作られていない。)

だから This is a pen. は、ものの世界ということになる。

英文を一目見るだけでも、一瞬でペンだ。
というイメージが湧くはずだ。

これは、日本語にいちいち翻訳することなく、
This is a pen. は This is a pen. と認識している。

イメージができれば、

英語を英語のまま理解しているといってもいい。

しかし、この世界のままでは、
カタコトの言葉しか話すことができない。

例えば、
「寒い部屋だな～」
とって、

ネイティブたちに向かって
「cold!」
と言ったとしよう。

すると、ネイティブたちは

「この日本人、暑がりだなーw

もっと下げてくれって要求してるぞ！」

と間違ったふうを受け止めてしまう。

さらに「cold!」と言うものなら

さらに部屋の温度は下がっていくだろう。

体験談なので、注意してもらいたい。

また、単語というのは、

1日やるだけでもだいぶ吸収できる。

僕は以前、単語合宿という

単語だけを覚える合宿を開いたことがある。

2 日間、単語とにらめっこして

憶えていったのだ。

その結果、単語帳をまるまる覚えてしまった方もいたし、

単語帳の index を上から下まで朗読した猛者までいた。

体験したことがないと実感しづらいが、

1 日、本気でやれば一気に成長することはできる。

では次。

◆◆「こと」の世界◆◆

次に、「こと」の世界。

ことの世界とは、

出来事がわかる「動作の世界」のことだ。

先ほどの例で言うなら、

It's cold.か、

風邪をひくような寒さなら

I feel cold.

というべきだろう。

するとネイティブが意地悪でなければ

「あ、この日本人寒がっていたのか！」

と理解して、部屋の温度を調整してくれる。

つまり、

「私が寒い」という状態・出来事を相手に伝えることができるのが、

「こと」の世界なのだ。

他にも、

I have a lunch.

I have a pen.

I have a apple.

「もの」の世界と違って、

動作がイメージできるだろうか？

ランチを食べているシーン。

ペンを持っているシーン。

リンゴを食べているシーン。（文脈によっては「持つ」）

こういった出来事が分かる世界のことを

「こと」の世界という。

動作があるということは、
動詞が中心になっている。

先ほどの単語と違って、思考力が必要になる。

思考力は鍛えにくいと思われがちだが
そんなことはない。

実は単語と同じように、
英語感覚さえ身につければ、一気に鍛えることができる。

日本語と英語とで違うところを探すだけだからだ。

英語感覚を知ったことで、

僕自身、英語をマスターするまで

けっこうラクすることができた。

確かに大変だったときもあったが、

他の方法に比べたら圧倒的にラクだったと感じる。

ベースとしては日本語で考えて、

伝えたい表現を幼稚園児にも伝わる

わかりやすい日本語にしていればいいのだ。

すると、ネイティブたちの発想と

比較的に近い英語にすることができる。

僕はいままで、

力を入れすぎるあまり、意味不明な英語になってしまっていた。

もっと肩の力を抜いて、

本質だけに 100%の力を注いでいこうと思う。

では、次。

◆◆「色彩」の世界◆◆

最後に、「色彩」の世界だ。

色彩のレベルを簡単に言うと、
情報を足すことができる世界だ。

この英語の世界が作れれば
いわゆる「英語スラスラ話せるぜ」のレベルになる。

「色彩」の世界では、
さきほどの「こと」の世界で使った

It's cold.が
どれほど寒いのか？を追加することができる。

そのために
程度を示す必要がある。

すると、「a bit」を足して

It's a bit cold.

となる。

すると、

「”ちょっとだけ”寒いから温度を 1 度上げて。」

と伝わるだろう。

もし、

「”すごい”寒い！この部屋にいと冷凍される！」

といたいなら

It's very cold.

となる。

このように、表現が豊かになるのが

「色彩」の世界だ。

他にも、リンゴというだけでなく、

「まんまるな真っ赤なリンゴ」

といえば、聞き手はイメージしやすくなるだろう。

ネイティブらしさが増して、

興味を持ってもらいやすいく、

コミュニケーションが弾むような会話をすることができる。

僕がネイティブたちと距離を縮め、
仲良くなれたのも「色彩」の世界を知れたからだ。

このように英語には原理原則がある。

効率よく勉強するためのステップがあり、
英語の型があり、パターンに当てはめて成長することができる。

だから僕はネットを使った方法で
多くの人と接しながら
けた違いの人数を成長へ導くことができた。

その経緯を踏まえさせてもらうと、

やはり「英語感覚」はぜひとも身につけてもらいたい。

単語を学ぶ初めるときから英語感覚は重要になってくる。

英語を勉強しようと思ったら

切っても離すことができないくらい重要なものだ。

英語感覚はセンスや才能なんか必要じゃない。

正しい勉強と、正しい視点があれば

必ず身につくものだ。

つまり、やろうと思う気持ちがあれば十分。

年齢とか、苦手意識とか、勉強時間がすくない
ってというのは気にしなくてもいい。

だって、英語感覚ってというのは
テンプレート通りに学べば身につくものだからだ。

本質は、思っている以上に地味なもので華やかさは一切ない。
(思っている以上に地味なはず)

だけど、それが本質なんだから
それから逃げていたらダメじゃないのか？
とって日々接している。

そして、本質的な方法を繰り返すことで
世界のどこでも通じる本物の英語がインストールされる。

リスニング・ライティング・スピーキング

色々な方法があるが、

僕個人としては
英文読解はかなり効率がいいものだと考えている。

なぜかというと、
繰り返して学ぶときに整理して学びやすいからだ。

主語がここ、動詞はここ。

こういったものを学びやすいし、
キレイな英語を伝えるときに便利だ。

そして人間は目から情報のほとんどを入手している。
その割合は、80～90%と言われている。

もちろん音声学習もいいと思うが、
土台が固まってからのステップなのだ。

まずは本質から鍛えていきたい。



以上が、3つの英語の世界だ。
それぞれの世界には明確なルールがある。

客観的に見て、自分はどこにいたろうか？

まずは自分のレベルを知ることが

思っている以上にかなり大事だ。

モヤモヤを抱えているなら

本質を「知る」ことが一番手っ取り早い。

本質を知るために、自分のレベルを把握して、

そのレベルから成長するための行動をすればいいのだ。

自分のレベルを知るから

適切で正しい方法を勉強することができる。

そのとき、英文を読んでみることをオススメしている。

誤解してほしくないのだが、

例文暗記するのではない。

英文の構造を考えながら読み、

英単語の核(コア)となる部分に注目して

読み進めていく。

特に、英語初心者だと思っている人ほど

まずは「もの」「こと」の世界を充実させよう。

僕も初めは土台から固めていった。

そうやって1つ1つ土台をしっかりと固めて
段階的にレベルを上げることが、
英語をマスターするまでの最短ルートなのだ。

あ、土台というのは英語感覚のこと。

僕がみてきて思うことは、
日本人は「もの」「こと」のどちらかの世界で
つまづいていることが非常に多い。

そしてそこからブレイクスルーすることができずに
いばらの道へ進もうとする人もいる。

いばらの道の例としては、
「もの」の世界を攻略し、
「こと」の世界を学んでいたのに、
再度、必要以上に英単語を学んだり、

「もの」の世界にいるのに、
「こと」の世界を飛び越えて
「色彩」の世界へ進む人も後を絶たない。

英語の世界に飛び級はないのだ。

そして大切なのは、我流でやらない事。

一番大切なところを教わって

ステップバイステップで攻略していかないと

ぼろぼろの土台ができあがって、

すぐにも崩壊しそうな状態になってしまう。

これは避けるべきだろう。

レベルがあわず、

予想以上に負担が大きくなる。

しかし、知らず知らずのうちに

負担を大きくしている場合もあるから

僕はプロから英語感覚を意識的に学んだ。

日本語でも、どこかつまづいていることがあるだろう。

しかし、通じるから

日本語を分析する人はいないはずだ。

対して、英語は意識して集中しているから

冷静に分析ができる。

ハッキリ言ってここまで意識できるようになったら

英語獲得までかなり近づく。

だって問題意識が強く働くから。

結局のところ、問題意識をもって

正しい方法で勉強すれば

いつから始めても大丈夫なのだ。

正しい方法というのは、

英文読解して「英語感覚」を身につける方法のことだ。

英文を読むことで

英語感覚を客観的に学ぶことができるし、

整理しながら読むことができる。

僕は、初めからリスニングで英語を勉強しても
ただ聞き流して終わってしまう。

それでは意味がなかった。

ちゃんと理論を知って、
英語感覚を掴むことで誰だって
英語をマスターすることができる。

英文を論理的に「構造」として捉え
中身を感情的に「コア」な意味だけ覚える。

すると、英語感覚が身につくのだ。

英語感覚が身につけば、英語を話すことは可能ということだ。

つまり、良質な英文を「構造」からとらえ

たった1つの「意味」を知る勉強を続けることで

無駄、徒労の一切を防ぐことができる。

英語をマスターして

ネイティブとも楽しく話すことがようやく可能なのだ。

ただ繰り返すようだが

無思考でインプットすればいいのではない。

英語感覚を掴んで、インプットするということが大事なのだ。

これを知ることができただけでも

今日は十分な収穫と言える。

そして、これから英語を学習するときには

確信をもって進めることだろう。

…最後に

僕はもっと勉強して、もっともっと人生を楽しみたい。

学ぶから、人生の扉が開いて、

さらに新しい世界へ進むことができる。

勉強して成長することによって

英語が僕にそっと気づかせてくれたのだ。

ぜひあなたも、英語感覚を学んで、
楽しい英語の世界へ飛び込んでみて下さい。

学んだ人から、短期間で、
大きな結果を残すほどの確信が得られるはずです。

それでは！

ベル

筆者ブログ：<https://bellthrough.com/>